

データ入力業務の効率化ツール

# ファイルアーク Officeエディション

書類をスキャンし、業務システムへアップロード

業務効率の向上

入力ミスの抑制



# 業務時間を短縮し、働き方改革を推進

紙の書類のインプット業務を低コストで効率化。  
業務効率の改善、人為的ミスによる誤入力の解消に役立ちます。

## 操作は簡単、4つのステップ！

### 1 文書取込

紙の書類を、スキャナを用いてPDFファイルや画像ファイルに変換します。ファイルアークは、それらのファイルを文書データとして取り込むことができます。

### 2 マッピング

高精度文字認識により、文書から文字を取り出せます。取り出したい文字エリアを型式/金額/数量等の業務システムの項目にマッピングし、帳票定義を行います。

### 3 チェック

一度帳票定義された文書は次回以降、自動で識別され、必要なデータが抽出されます。データの内容確認や不足情報の入力を行い、出力情報を完成させます。

### 4 データ出力

出力情報は、CSVファイルとして外部出力されます。スクリプト機能により、システム側が利用しやすいデータ書式に加工してデータ出力することも可能です。





## 文書取込

スキャナで読み取った文書をドラッグ操作で取り込みできます。文書一覧で文書名をクリックすることでイメージを確認できます。各文書の認識状況も一目でわかります。

- PDF
- TIF
- JPG



## 文字認識 & マッピング

文書から取り出したい文字エリアをドラッグ操作で範囲選択します。そのエリアは高精度の文字認識技術により、文字データ化され、業務システムの項目とマッピングできます。

- 活字
- バーコード
- 手書き文字

COGNITIX SmartRead

このスクリーンショットは、FileArk Office Editionの操作画面を示しています。左側の「文書一覧」で認識された文書がリストアップされています。中央には「注文書」のイメージと、その内容を抽出した「項目 明細 値」の表が表示されています。右側には「出力項目」のリストがあり、特定の項目を選択して出力先を設定できます。また、「簡単マッピング」ウィンドウで、抽出された文字列「TAKEBISHI Solution」をデータベースの項目と紐づけることができます。下部にはメッセージログが表示されています。

文書一覧と認識状況の表示

範囲指定で簡単エリア選択

簡単マッピング

出力情報の確認 & 修正



## 帳票自動認識

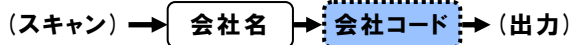
文書のレイアウトを帳票定義として登録することで、次回から自動で文書の種類を認識し、必要なデータを抽出します。文書を仕分ける必要がありません。

- 特徴点指定 (最大3箇所)
- 基準位置指定



## データ加工 & 出力

スクリプト機能 (C#) で、認識文字から品番や会社コード等の固有値に変換し、業務システムへ出力できます。豊富なカスタマイズ性により、様々な業務システムとの連携が可能です。



**注番** 注文書

注文番号 T12345 発注日: 2018/4/27

納期: 2018/5/7 **会社名** ABC商事

合計: ¥410,000

製品名	単価	数量	金額
製品A	¥30,000	2	¥60,000
製品B	¥50,000	5	¥250,000
製品C	¥10,000	10	¥100,000

```

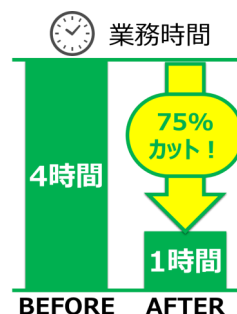
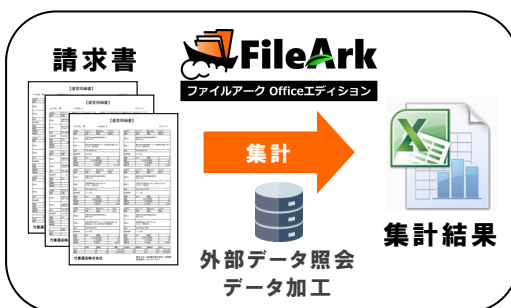
8 // 接続文字列作成
9 string myConnStr = @"Provider=Microsoft.Jet.OLEDB.4.0;Data Source=C:\Data\test.mdb";
0 // クエリ文作成
1 string strQuery = "SELECT * FROM Table1 WHERE CompanyName = '" + SCANITEMS.会社名 + "'";
2 // コネクションオブジェクト作成
3 System.Data.OleDb.OleDbConnection oleDB = new System.Data.OleDb.OleDbConnection(myConnStr);
4 // コマンドオブジェクト作成
5 System.Data.OleDb.OleDbCommand cmd = new System.Data.OleDb.OleDbCommand(strQuery, oleDB);
6
7 try
8 {
9 // DB接続
10 oleDB.Open();
11 // データリーダーオブジェクト作成
12 System.Data.OleDb.OleDbDataReader reader = cmd.ExecuteReader();
13 if (reader.HasRows)
14 {
15 while (reader.Read())
16 {
17 OUTPUT.ITEMS.会社コード = reader.GetString(2);
18 }
19 }
20 else
  
```

## 導入事例

紙の請求書の集計業務に導入し、手作業で4時間要していた業務が1時間となり、**75%の業務時間短縮**につながりました。

(処理内容)

- ① 請求書記載の部門名や単価、数量、合計金額等を読み取
- ② 部門名をキーに外部データ照会し、部門コード取得。
- ③ 単価と数量の掛け算と合計金額の一致照合。
- ④ 部門毎の集計結果をCSV出力。





## ラインナップ・価格

表示価格に消費税を含みません

製品名		標準価格	型式	備考
ファイルアーキ Officeエディション クラウド版	SSプラン	12,000円/月額	FARK-CLD-SS	1ヶ月あたり500枚までの文書取り込み
	Sプラン	28,000円/月額	FARK-CLD-SMALL	1ヶ月あたり2,000枚までの文書取り込み
	Mプラン	48,000円/月額	FARK-CLD-MEDIUM	1ヶ月あたり5,000枚までの文書取り込み
	Lプラン	78,000円/月額	FARK-CLD-LARGE	1ヶ月あたり10,000枚までの文書取り込み
ファイルアーキ Officeエディション スタンドアロン版	初期費用	400,000円/1台	FARK-OFFICE	文書取り込み数に制限なし。1年目の保守費用を含む。
	年間保守	60,000円/1台	FARK-OFFICE-SUP	2年目以降の年間保守費用

※「クラウド版」は、クラウドサービスを介した高精度な文字認識が可能です。インターネット回線が必要となりますが、クラウド上で動作する製品ではなく、「スタンドアロン版」と同じくインストールしたPC上で動作する製品です。事業所内に限り、1ライセンスにつき、最大PC10台までインストールが可能です。価格にはクラウド利用料と保守費用を含みます。契約プランの取り込み枚数をオーバーした場合は、1,000枚単位で追加できます。(型式:FARK-CLD-A1K 標準価格:18,000円)  
※「スタンドアロン版」は、オフライン環境での文字認識が可能です。1ライセンスにつき、PC1台にインストールが可能です。

## 手書き対応オプション(クラウド版専用)<sup>※1</sup> SmartRead

表示価格に消費税を含みません

製品名		標準価格	型式	備考
手書き対応オプション	SSプラン用	+13,000円/月額	FARK-TOP-BS-SS	シングルラインとボックスキャラクタあわせて 1帳票あたり合計5エリアまで指定可能 <sup>※2</sup>
	Sプラン用	+29,000円/月額	FARK-TOP-BS-S	
	Mプラン用	+63,000円/月額	FARK-TOP-BS-M	
	Lプラン用	+120,000円/月額	FARK-TOP-BS-L	

例) SSプラン(500枚/月)に「手書き対応オプション」を追加する場合

SSプラン 12,000円/月 + 手書き対応オプション SSプラン用 13,000円/月 = 25,000円/月

シングルラインの例

手書き印刷 A4サイズ

※1「クラウド版」の各プランに、Cogent Labs社のSmartReadサービスを利用した高精度な手書き文字認識機能を付加できます。  
※1「クラウド版」では標準で簡易な手書き文字認識機能を搭載していますが、本オプションでより高精度に認識ができます。

※2 5エリアを超える場合は複数契約が必要です。(例:8エリア必要な場合は、手書き対応オプション×2契約で10エリア分利用可能)

ボックスキャラクタの例

012345

## 動作環境

項目	仕様
OS	Windows11/10/8.1/7 日本語OS 32bit/64bit(WOW64で動作)
CPU	インテル Core 2 Duo プロセッサ 2GHz 以上
ディスプレイ	解像度 WXGA(1280×800)以上
メモリ	4GB以上(仮想メモリ含め2GB以上の空きが必要)
ディスク容量	1GB以上の空きが必要

項目	仕様
フレームワーク	.NET Framework 4.6
外部I/F	インターネット接続(有線もしくは無線) <sup>※1</sup> USB接続(スキャナとの接続にUSB接続が必要な場合)
スキャナ <sup>※2</sup>	紙の書類を読み取り、PDFファイルやJPGファイル、TIFファイルとして保存可能なスキャナ

※1「クラウド版」でのみ必要となります。

※2 スキャナは紙の書類の取り込みみにのみ必要となります。

## ソフトウェア仕様

項目	内容	
主要機能	取り込み文書形式	PDFファイル/JPGファイル/TIFファイル DocuWorks文書 <sup>※1</sup>
	文字認識	・クラウドOCRを用いた文字認識機能 ・オフラインOCRを用いた文字認識機能
	出力機能	CSV出力(スクリプト機能によりCSV以外も可)
	帳票定義	文書毎に帳票レイアウトを定義可能 文書の自動識別に対応
	値変換	・ルールベースの値変換 ・スクリプト機能による値変換
	モード	開発モード/運用モードの切替
文字認識	認識対象	テキスト認識(活字・手書き文字 <sup>※2</sup> ) バーコード認識、白黒閾値判定(黒密度による判定)
	種類	日本語、英数字、数字、チェックボックス、日付
	その他	空白・改行削除、信頼度表示(手書き文字認識のみ)
画像認識	画像認識	画像検索による座標認識(ズレ補正)と特徴点検出
帳票定義	帳票数	最大128
	基準位置テキスト	指定テキストの座標を基準とした座標認識に対応 1帳票あたり、1箇所設定可能
	自動識別テキスト	帳票種類の識別情報を「自動識別テキスト」として 1帳票あたり、3箇所設定可能
	スキャン項目	帳票内の任意エリアに、出力設定で定義したスキャン 項目を割り当て可能
	変換ルール	部分一致・完全一致の条件による値変換処理 1帳票あたり最大4096ルール設定可能

項目	内容	
出力設定 (連携する 業務システム に応じた設定)	設定数	最大128
	スキャン項目	帳票の任意エリアに割り当てる項目 最大128項目設定可能
	出力項目	業務システムへ出力する項目 最大128項目設定可能
	その他	各項目の明細数指定(1~99)に対応
スクリプト機能	言語	C#スクリプト
	実行タイミング	・アプリケーション起動時 ・アプリケーション終了時 ・テキストスキャン終了時 ・認識失敗時 ・定周期実行 ・帳票認識処理開始時 ・帳票認識処理終了時 ・変換ルール適用開始時(帳票単位) ・変換ルール適用終了時(帳票単位) ・出力項目紐付け開始時 ・出力項目紐付け終了時 ・出力内容のチェック処理 ・出力処理開始時 ・出力処理(指定ない場合はCSVファイル出力) ・出力処理終了時
	その他	各処理共通の前処理を定義可能
その他	テキストスキャン機能	帳票定義せずに、文書内の全テキストを認識する 簡易スキャン機能

※1 DocuWorksがインストールされている環境で動作させる必要があります。

※2 手書き文字認識は、「クラウド版」のみで利用できます。



株式会社 たけびし

〒615-8501  
京都府京都市右京区西京極豆田町29  
TEL:075-325-2171 FAX:075-325-2273  
製品HP: www.faweb.net

### 技術サポートダイヤル

075-325-2261 受付時間9:00-12:00/13:00-17:00  
(土・日・祝日を除く)

メールサポート窓口: fa-support@takebishi.co.jp

本書記載の会社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。本書記載の内容は将来予告無く変更することがあります。

2024年4月作成